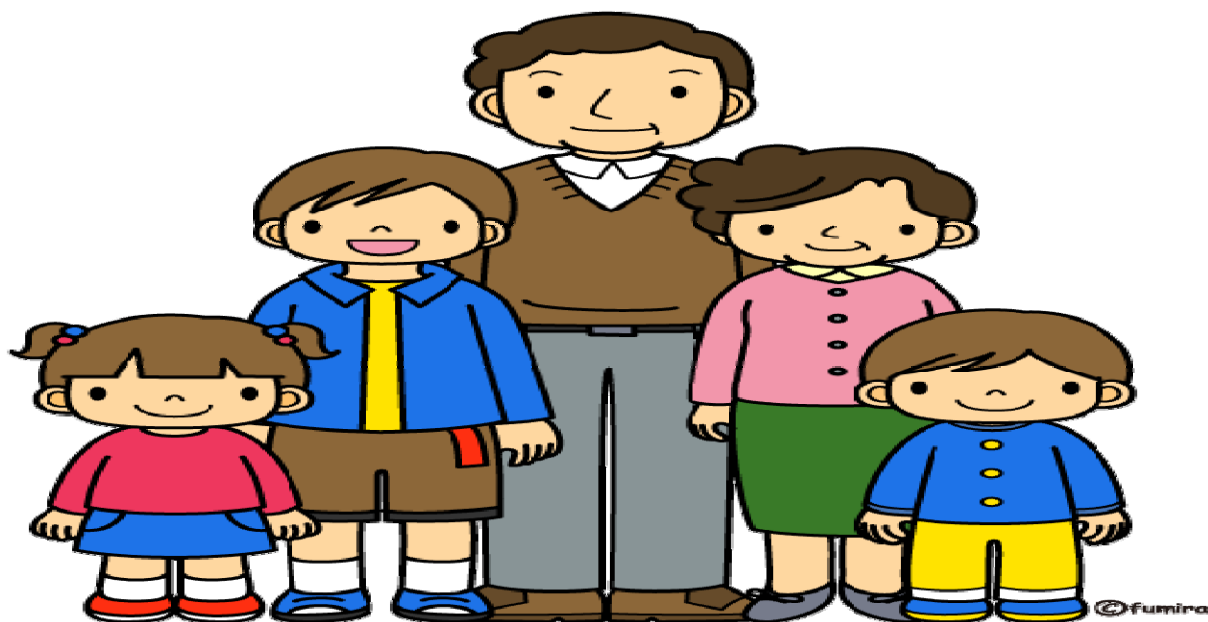


もの忘れ外来 通信

平成23年8月 No. 5



十和田市立中央病院メンタルヘルス科

〒034-0093 十和田市西十二番町14番8号

十和田市立中央病院 メンタルヘルス科

Tel0176-23-5121 (代表) メンタルヘルス科外来まで

予約・問い合わせ時間: 平日午後13:00~17:00

介護の相談窓口

☆十和田市地域包括支援センター Tel0176-51-6720

☆在宅介護支援センター (地域包括支援センターへお尋ねください。)

☆十和田市保健センター Tel0176-25-1181

☆上十三保健所 Tel0176-23-4261

月1回 (要予約) 専門医による面接相談 ◎相談は随時

☆十和田市役所 高齢介護課 「もの忘れ相談」 Tel0176-51-6720

月1回 (要予約) 専門医による面接相談 ◎相談は随時

(十和田市以外の方は各々の市町村へお問い合わせください。)

☆家族の会 「ほほえみ」(十和田社会福祉協議会) Tel0176-22-7938

第3水曜日 13:30~15:30 家族会員による電話又は面接相談

☆認知症のひと家族の会 十和田地区世話人

佐々木様 Tel0176-22-1617

月1回 集い開催 電話相談あり(13:00~15:00)

☆認知症疾患医療センター 青森県立つくしが丘病院 Tel017-788-2988

☆老人性認知症センター 藤代健生病院内 Tel0172-36-5181

むつ総合病院内 Tel0175-22-2111

十和田市立中央病院内 Tel0176-25-6111

平成23年6月25日に行われた上十三もの忘れフォーラム2011

ご家族の方の声ををご紹介します 患者さんご家族 下浅 香奈子様

父が4年前に後腹膜脂肪肉腫という悪性のがんを患いなくなりました。
母は仕事を辞め、趣味の園芸にも手を掛けることはなく、亡くなるその日まで介護の生活でした。
今思えば、忘れものもひどく「認知症」はそのころから少しずつ進行しておりました。

昨年4月に十和田市立中央病院を訪れ、検査・診察を受けた結果、「若年性アルツハイマー型認知症」という宣告を受けました。

そのとき母は58歳。

私たち姉妹にとって未知の世界でした。

しかし、メンタルヘルス科の竹内先生の口からは、「ハッピーな介護をしていきましょう」という言葉をいただき、非常に驚いたことを覚えています。

認知症と言われても、どうすればよいのか全くわからず、不安が私たちを襲いました。

運動会の100M走のようにスタートしてから先の見えるゴールへ突き進むのとは訳が違います。先の見えない道をどれくらい走るのかが心配でした。

仕事をしながらの家族の介護は悩みや疑問が多く、初めの頃は辛いと思うこと、誰にも相談できずに涙を流したことも多かったです。

周りの人、職場の人の病気に対する認知度は低く母子家庭である私には、仕事量を減らすことや、介護に疲れて休むことなど、理解を得られることは難しく、この先は仕事を続けていけるか不安は常につきものでした。

母は、ご飯を食べた事を忘れ、目に付いたものを食べ、消化不良を起こし、暑い・・・寒いのがわからなくなり、常に目配り、気配りが耐えませんでした。

精神的、肉体的にも疲労が重なり、母を憎んだこともありました。

昨年の終わりから、今年の初め頃には、幻覚や幻聴の症状がみられ、それを私たちが理解し、受け入れるのは、容易なことではありません。

母がものを隠す行動は、本人にとっては、ものを盗られないようにしようという行為であったり、部屋を行き来する行動は、忘れたことを思い出す行動であったりと、なんでこんなことするの？に対して解決策を知るために、専門書を買ひ、知識を得たのが去年の9月ごろでした。

介護する側にも休息が必要です。精神面、肉体面での余裕が必要です。そんなとき一泊二日、二泊三日のショートステイを利用させていただきました。

妹との仕事が重なるとき、6歳の息子と認知症の母を何時間も二人きりにしておくのは心配で、一日に2回、間を空けてヘルパーさんを利用させていただきました。

今年5月で母は59歳となりました。しかし年金はもらえません。認知症の場合、障害年金は初診から1年半が経過するまでは適応にならないため、私たちの給料などでやりくりしていました。

そのため、介護や通院、ショートステイなど、経済的に苦しいと利用できるところも限られています。自分たちの生活に見合った、介護の道を探すが、患者さんも、家族も無理なく生きていける道づくりだと感じました。

介護を通じてよかったことは、初めの頃、自分たちの辛い気持ちで精一杯で母の苦しさ思いを馳せることはありませんでした。

いつしか、親子の関係も無くなり、母は私を先輩と呼ぶこともありました。ショートステイなどを利用したり、病院に入院していて、母と離れる時間ができたとき、心の平穏を取り戻し、少しでも自分たちのプライベートな時間を持つことができました。

母への思いやりを持って介護していた矢先のことでした。

先月5月19日に母は亡くなりました。わずか1年間の介護生活でした。

介護される方は、大変な苦労があると思います。

患者さんも大事にしなければならないとは思いますが、なによりも自分自身の事も大切にしていきたいと思ひます。

わからないことがあるなら、担当のケアマネージャーさん、病院の先生に、同じ病気を持つ家族の方に聞いてみてください。

わからなかったことの知識を少しでも頂けると思ひます。

私の経験で大変恐縮ですが、このような機会をくださり感謝いたします。ありがとうございました。